

《医科栄養学研究科博士前期課程 医科栄養学専攻》

- ・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。
- ・ディプロマ・ポリシーをさらに細分化している場合には、それを項目として用いることができる。

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 高度な理解力】	【2. 国際力と高度な専門技能】	【3. 強いリーダーシップ】	【4. 強い研究遂行能力と情報発信能力】	科目の教育目標	担当教員名	単位数	
			基礎栄養学、公衆・臨床栄養学の先端情報を取得し、理解できる能力を有する	英語による栄養科学の知識・知見及び専門的研究手法や技能を理解し習得している	臨床栄養管理手法や栄養指導方法を取得し、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮できる	基礎研究、臨床研究、調査研究のいずれかの研究手法を修得し、情報を発信できる			必修	選択
全専攻系共通カリキュラム科目	生命倫理概論		○		◎	◎	生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。	西村明儒 他		2
	臨床心理学		○		◎	◎	臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題を説明できる。	津島文彦 他		2
	社会医学・疫学・医学統計概論		◎	◎	○	◎	社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標とする。	渡邊謙吾 他		2
	英語論文作成法		○	◎	○	◎	21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材には発信型英語能力が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。	池田康将 他		2
	宇宙と栄養・医学概論	○	◎			◎	宇宙栄養学・医学の分野において、宇宙実験の申請に必要な知識や問題点が理解できる。	二川 健、三上靖夫、笠岡(坪山)宣代		2
	生命科学の研究手法		◎	◎	◎	◎	医科学・生命科学研究に必須の初歩的技術が理解できる	森田明典 他		2
	医療系分野における知的財産学概論		○		○	◎	1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 研究活動や医療に必要な知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。	石田竜弘 他		2
	生命科学コミュニケーション特論		◎	◎	○	◎	英語を介して、生命科学における多様な知識を得ること、それらを理解し、簡潔にまとめて発表し、科学的な議論を行うスキルを向上させることを目的とする。	渡邊謙吾 他		2
	研究方法論		◎		○	◎	報告された臨床研究結果の批判的解釈ができる。臨床第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ相試験のデザインについて理解し、プロトコルの立案と遂行に関与できる。	楊河宏章 他		1
	がんチーム医療実習		◎		◎	○	がん医療にかかわる他職種との役割を理解できる。患者のケアに関して他職種との意見交換・討論ができる。他職種に専門的な助言ができる。チームとして行動できる。	滝沢宏光 他		0.5
	悪性腫瘍の管理と治療		◎	○		○	がんの検査・診断法、手術療法・放射線療法・化学療法などの治療法、さらに支持療法、緩和医療のstate of the artについて理解するとともに、がんの心理的・社会的側面についても理解を深める。	滝沢宏光 他		1
	医療情報学		○	○		○	情報化とは何か、病院情報システムの概要、ならびにデータ解析の手法である“Data Mining”について理解する。文献、オンラインデータベース、インターネットを通じてがんの臨床と研究に関する情報検索と収集ができる。EBM、クリニカルパスの方法や意義について理解する。	廣瀬 隼 他		0.5
	医療対話学(コミュニケーションスキル)		◎	○	◎	◎	がん患者と家族、医療チーム内スタッフとの良好なコミュニケーションを確立できる。がん患者と家族に好ましくない情報をスムーズに告知でき、必要に応じてカウンセリング、スピリチュアルケアを提供できる。	沼田周助 他		0.5
医療倫理と法律的・経済的問題		◎	○		◎	がん医療と臨床研究の遂行に必要な医療倫理、法律的問題、社会的・経済的問題について理解する。	西岡安彦 他		0.5	
各専攻系間の共通カリキュラム科目	臨床医科学概論		◎	○	◎	◎	循環器、呼吸器、消化器、神経・筋、内分泌・代謝、血液の各臨床領域における代表的な疾病につき、発生機序および原因となる遺伝子などの異常、そして各々の疾患の病態生理を理解させ、最新の診断および治療法の理論と実践を学ばせる。	松香芳三 他		2
	プロテオミクス概論		◎	○	◎	◎	ポストゲノム時代における医学および生物学に重要な位置を占めるプロテオミクスの基礎を習得する。	小迫英尊 他		2
	健康食品・漢方	○	◎	○	◎	◎	健康食品、漢方、天然薬物などの正しい知識と、適切な使用方法に関する基本事項を身につける。	竹谷 豊、赤川 貢、田中直伸、亀井 優輝、伏見太希		2
	ヒューマンサイエンス(形態と機能)		◎	○	◎	◎	1. 科学的、論理的な理解、説明ができる。 2. 細胞の基本構造と機能を説明できる。 3. 遺伝子情報の仕組みを理解できる。 4. 膜輸送、情報伝達の仕組みを説明できる。 5. 以上の知識に基づいて課題について調査し自らの考えをまとめることができる。	寺井健太		2
	ゲノム創薬特論		◎	○	◎	◎	ヒトゲノム情報に基づく疾患発症の分子機構、創薬及び治療アプローチに関する講義を通じて、ゲノム創薬の考え方と実際について学ぶ。	井貫晋輔 他		2
指定科目	分子栄養学特論	○	○		○		健康と生命および身体の恒常性の維持に関する基礎的知識を習得する	瀬川博子		2
	宇宙運動学	○	◎	○	○	◎	宇宙環境における運動の重要性について理解する。	二川 健、三上靖夫、笠岡(坪山)宣代		2
	特殊環境栄養学	○	◎	○	○	◎	宇宙や災害など特殊な環境での栄養学を理解する。	二川 健、笠岡(坪山)宣代、三上靖夫		2
	食品機能学特論	○		◎		◎	ヒトの健康維持や疾病予防に関わる食品機能成分の三次機能発現機構について具体例を基に講義することにより、食品機能成分の応用に向けた基礎知識を修得させる。	赤川 貢		2
	栄養と感染微生物学概論	○	◎	○	○	◎	ヒトの栄養に関係する感染性微生物に関して知識を習得する	高橋 章		2
	栄養サポート概論	○	◎			◎	栄養管理の基礎を学ぶ	野村 和弘		2
	臨床病態栄養学特論	○	◎	○	◎	◎	疾患毎の栄養素代謝を理解できること、またそのような栄養素代謝異常を理解した上で適切な栄養管理の手法を適応できるようにすることを目標とする。	竹谷 豊		2
	治療栄養管理学特論	○	◎	○	◎	◎	疾病の成り立ちと治療を理解し、治療の一部としての栄養療法・栄養管理が実施できるようになる。	竹谷 豊		2
	臨床栄養管理学演習	○	◎		◎	◎	栄養管理について、1)栄養摂取量の設定、2)栄養投与経路の選択、3)食事・経腸栄養剤・輸液の選択、4)水・電解質管理について理解し、適切な選択ができるようになる。	竹谷 豊		2
	臨床栄養管理学実習	○	◎		◎	◎	栄養管理について、1)栄養摂取量の設定、2)栄養投与経路の選択、3)食事・経腸栄養剤・輸液の選択、4)水・電解質管理について実習を通じて実践できるようにする。	竹谷 豊		4

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 高度な理解力】	【2. 国際力と高度な専門技能】	【3. 強いリーダーシップ】	【4. 強い研究遂行能力と情報発信能力】	科目の教育目標	担当教員名	単位数	
			基礎栄養学、公衆・臨床栄養学の先端情報を取得し、理解できる能力を有する	英語による栄養科学の知識・知見及び専門的研究手法や技能を理解し習得している	臨床栄養管理手法や栄養指導方法を取得し、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮できる	基礎研究、臨床研究、調査研究のいずれかの研究手法を修得し、情報を発信できる			必修	選択
指定科目	臨床栄養治療学特論	○	◎	○	◎	◎	患者の病態が把握でき、栄養状態を評価し、適切な栄養管理を行うために必要な考え方を習得する。	濱田康弘		2
	公衆栄養学特論	○	◎	○	○	○	公衆栄養活動の科学的根拠について学習する。	酒井 徹		2
	臨床栄養学概論	○	◎	◎	◎	◎	栄養障害患者の栄養管理法、新規栄養治療法を確立する基盤と方法、栄養・食品の機能と栄養治療、栄養治療などを修得させる。	高橋 章 他	2	
	健康科学特論	○	◎	◎	◎	◎	栄養学の最新の研究成果に関する講義を通じて、栄養学の先端知識、研究手法、考え方を学ぶ	全教授	2	
	人間栄養学特論	○	◎	◎	◎	◎	疾患と栄養の密接な関係を理解する。研究に必要な英語力をつける。	瀬川博子 他	2	
	栄養情報学概論	○	◎	◎	○	◎	疾患毎の栄養素代謝を理解できること、またそのような栄養素代謝異常を理解した上で適切な栄養管理の手法を適応できる	竹谷 豊		2
	臨床腫瘍栄養学		◎	○	◎	◎	各種がんの病態・治療について理解し、がん診療にあたって、他の医療職種と共通の理解を得る	竹谷 豊		2
	腫瘍栄養管理学演習		◎	○	◎	◎	がんの治療における栄養管理法について、1)栄養摂取量の設定、2)栄養投与経路の選択、3)食事・経腸栄養剤・輸液の選択、4)水・電解質管理について理解する	竹谷 豊		2
腫瘍栄養管理学実習		◎	○	◎	◎	がん治療中の患者に対し、適切な栄養管理ができるようになる。 1)栄養摂取量の設定、2)栄養投与経路の選択、3)食事・経腸栄養剤・輸液の選択、4)水・電解質管理	竹谷 豊、野村 和弘、高橋 章、濱田康弘		4	
専門科目	分子代謝学演習	○	◎	◎	◎	◎	疾患予防と栄養の関係について分子レベルで理解する。	瀬川博子		4
	分子代謝学特別実験	○	◎	◎	◎	◎	実験学習し、基礎栄養学を理解する能力を身につける	瀬川博子		12
	生体機能学演習	○	○	◎	○	◎	生体機能と栄養の関係に関する最新の情報について議論する。	二川 健		4
	生体機能学特別実験	○	◎	○	○	◎	生体機能と栄養の関係について研究を行い、学会や論文を通じて成果を発表する。	二川 健		12
	食品機能学演習	○		◎		◎	機能性食品科学に関する基礎的理解を深める	赤川 貢		4
	食品機能学特別実験	○		◎		◎	食品機能科学研究を進めるための基礎技術を修得させる	赤川 貢		12
	国際食品安全学演習	○	○	◎	◎	○	国際的に注目されている食品の安全確保に関して演習により知識と技能を習得する。	高橋 章		4
	予防安全学特別実験	○	○	◎	○	◎	栄養や食品の安全性の確保に関して、実験を等して知識と技能を身につける。	高橋 章		12
	健康医科学演習	○				◎	研究を遂行し、論文にまとめる。	野村 和弘		4
	健康医科学特別実験	○				◎	研究の計画ができること。 論文の作成。	野村 和弘		12
	栄養治療学演習	○	◎	◎	◎	◎	栄養代謝、栄養療法に関して、最新の知見を知るとともに、実践で生かせる洞察力や判断力を養う。	竹谷 豊		4
	栄養治療学特別実験	○	◎	◎	◎	◎	研究課題について、適切な研究手法を用い、問題を解決するとともに、学会発表や論文などを通じて成果を公表できるようになる。	竹谷 豊		12
	公衆栄養学演習	○	◎	○	○	○	栄養疫学に関する最新論文を精読する。	酒井 徹		4
	公衆栄養学特別実験	○	◎	○	○	○	栄養疫学および栄養疫学に関する最新の実験手法を習得する。	酒井 徹		12
	機能素材開発学演習	○		◎		◎	機能性素材の開発に関する基礎的理解を深める	小竹英一、箭田浩士、松木順子		4
	機能素材開発学特別実験	○		◎		◎	機能性素材開発研究を進めるための基礎技術を修得させる	小竹英一、箭田浩士、松木順子		12
	精神・神経栄養学演習	○	○	◎	○	◎	中枢機能と栄養に関する最新の情報について議論する。	武田伸一		4
	精神・神経栄養学特別実験	○	◎	○	○	◎	中枢機能と栄養の関係について研究を行い、学会や論文を通じて成果を発表する。	武田伸一		12
	宇宙栄養学演習	○	◎	○	○	◎	宇宙と栄養・運動に関する最新の情報について議論する。	三上靖夫、笠岡(坪山)宣代、二川 健		4
	宇宙栄養学特別実験	○	◎	○	○	◎	宇宙と栄養・運動の関係について研究を行い、学会や論文を通じて成果を発表する。	三上靖夫、笠岡(坪山)宣代、二川 健		12
	疾患治療栄養学演習	○	◎	○	◎	◎	栄養管理、栄養療法に関して、最新の知見を知るとともに、実地臨床で活かせる知識を身につける。	濱田康弘		4
	疾患治療栄養学特別実験	○	◎	○	◎	◎	研究課題について、適切な研究手法を用い、問題を解決するとともに、学会発表や論文発表などを通じて成果を公表できるようになる。	濱田康弘		12
	臨床腫瘍栄養学演習		◎	◎	◎	◎	がんに関する最新の情報を学ぶ過程を通じて、情報収集、がん栄養に関する研究手法、最新の栄養管理法などについて説明できる。	各研究室指導教員		4
	臨床腫瘍栄養学特別実験		◎	◎	◎	◎	がん栄養に関する研究手法を習得する。	各研究室指導教員		12
臨床栄養学演習	○	◎	◎	◎	◎	臨床栄養に関する最新の文献について議論し、研究手法の理解やその成果を活用できる力を養う。	各研究室指導教員		4	
臨床栄養学特別実験	○	◎	◎	◎	◎	臨床栄養に関する研究手法を習得する。	各研究室指導教員		12	